



代々木歯科コーナー

連載

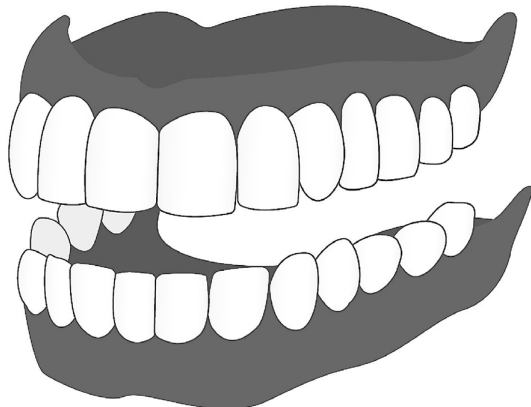


その67 歯科医師 上田英範

入れ歯の汚れから粘膜炎に

前回は舌の清掃についてお伝えしました。今回は入れ歯の汚れによる粘膜炎についてお伝えします。

入れ歯が触れる歯のようになってしまった歯茎や上顎、頬の内側に炎症が起ってしまうことがあります。これは義歯性粘膜炎と呼ばれ主に入れ歯のお手入れ不足が原因で生じます。



入れ歯といえは当たって痛い、上手く噛めないといったトラブルがよく思い浮かぶかと思えますが、入れ歯に付着した汚れによって粘膜が赤くなり、痛みを伴ったり感染症のリスクが高まったりします。

飲み込みの力が弱まってしまっている、やわらかい食品や栄養価の高いドリンク剤を高頻度に召し上がっていることが多いです。

この場合、食べ物を噛み込んで残ったまま飲み込んでしまっている、ドロドロの状態です。飲み込んだ後に入れ歯の隙間や歯と歯の間、歯と頬の間や上あごに残ってしまっている、歯ブラシを行っていても、頬の内側や上あごに食べかすが残ってしまっています。



そのような状態が長期間続くと、そこに細菌が繁殖し粘膜炎を起してしまう場合があります。また細菌が誤嚥により肺炎を起してしまう可能性を上げてしまいます。

次回で、入れ歯のお手入れについて詳しくお伝えします。

くすりの話あれこれ 140

咳と痰のお話し

薬剤部 薬剤師 澤田梨奈

気管や肺は、外から侵入する病原体等に直接さらされています。これらに起因する感染症等の発生を防ぐための防御反応が咳と痰です。

咳が出ると、気道の粘膜が異物をからめとった事により痰が出ます。しかし、咳や痰が長く続くと、QOLの低下、体力の消耗などにつながるため、必要に応じて咳や痰を抑えたりします。

で、必ずしも止める必要がないことがあります。しかし、咳や痰が病気により出ることもあり、原因を明らかにして適切な治療を受けた方が良いでしょう。

長く続くようであれば、躊躇せずに受診しましょう。



(参考) 高齢化に伴い、脳血管障害・認知症などの患者さんが増えています。この様な病気では、咳を出すことが難しくなっています。咳が出ない症状は、咳が出るより重篤な症状であり、誤嚥性肺炎(食べ物を飲み込むことができなくなり、食べ物が入って気道に入り込んで肺炎を起してしまう)を起す危険性があります。

代々木病院の社保・平和活動



12月6日千駄ヶ谷駅前69行動。今年の原水禁大会代表の小椋さん、野村さんも参加、総勢9名で横断幕も掲げ、「核兵器の全面禁止、9条改憲NO」を訴えました。

サプリメントに頼らない生活

薬剤師 藤竿伊知郎 (外苑企画商事)

残念ながら、薬と健康食品の相互作用に関する情報は信頼できるものが少なく、雑誌記事のようにこうすれば良いとアドバースできるものはあまりありません。

この連載で紹介してきたように健康被害を起した健康食品は存在しますが、誇大広告に近い効能しかない製品もたくさんあり、服用しても薬に影響するとは考えられない製品も数多く売られています。

この連載で紹介してきたように健康被害を起した健康食品は存在しますが、誇大広告に近い効能しかない製品もたくさんあり、服用しても薬に影響するとは考えられない製品も数多く売られています。

(54) 薬とサプリメントの飲み合わせ

10月22日に放送された「NHK クローズアップ現代+」から、「隠れ多剤服用」の危険性が注目されています。この番組では、高齢者が6種類以上の薬を服用すると副作用の危険性が高まることを取り上げ、寝たきりになったり、認知症と誤診されてしまうケースを紹介しました。さらに、健康食品・サプリメントと薬を併用すると副作用の危険性が高まる可能性も指摘したのです。

